

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

### 外部評価の結果

<b>事業所名</b>	グループホーム あずみ
日付	平成18年3月31日
	特定非営利活動法人
<b>評価機関名</b>	ライフサポート
評価調査員	在宅介護経験15年
評価調査員	在宅介護経験11年
<b>自主評価結果を見る</b>	
<b>評価項目の内容を見る</b>	
<b>事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)</b>	

**講師**  
全体を通して(特に良いと思われる点など)  
「食べる」ことを大切にしている。利用者にとっても、一番の楽しみは食べる事に違いない。食材の調達から、すべてホームの厨房で調理をする。職員も調理当番になると、調理に専念し、他のケアはしない。それは衛生上の問題もあるが、調理に要する時間も必要だから。ホーム全体の調理は、一方のユニットの厨房で作られ、その料理別に刻み食にしたり、ミキサー食に加工するのを別の厨房で行い、各々の盛り付けをして、各ユニットに分けられる。  
利用者の希望を聞いて栄養士が献立表を作り、給食委員会で検討している。元気な利用者は、この調理に参加し、盛り付けや料理をユニットに運んだりしている。どの人が利用者なのか、職員なのか、一見して、よく分からないくらいの光景である。  
次に「おむつはずし」に特に力を入れている。病院や在宅から入所した利用者の中で、おむつをしていた人が普通のパンツになった時に、家族と共に喜んでいる。代表のモットーとしても、「自分達のケアによって、要介護度が低くなって、自立度が向上する事を喜びとする」があり、ホーム長以下職員で頑張っている。  
人間にとって、生きていく最低限の機能は「食べる」と「排泄すること」を自分自身の身体で出来ることであるし、毎日の生活を楽しくする一番は「美味しく食事を楽しむ」と「気持ちよく出せる」ことである。この機能を最重点に置いている事は当然である。  
代表は大手企業に勤務していたということで、組織化と標準化という管理の一面が伺える。委員会組織で検討や運営をしたり、危機管理も考えていて、その中で利用者の避難訓練を毎月実施している事に興味を持った。  
特に改善の余地があると思われる点 次のような提案をした  
介護に係る計画や記録、そして日々の生活・介護記録などの様式を取り寄せて、よく検討して要領よくまとめているが、もう少し工夫して、全体の流れが一目で理解出来る方法に改良して、記録に要する介護職の時間を省力化して、利用者に関わる時間を増やす方向を見出してほしい。  
広い庭があり、菜園もある。暖かくなったら、出来るだけ多くの時間を両ユニットの利用者が一緒になって外で暮らす雰囲気を作っていくと良いと思う。外でお茶を飲んだり、バーベキューをしたりして家族と一緒に時間を持てるのも楽しいと思う。

### I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か 「利用者信頼関係をつくり、一人ひとりの尊厳を守り、ゆったりと穏やかに暮らしてもらい。残存機能の向上に向けて支援している」という理念を掲げ、ホーム長や計画作成担当者・職員が日々努力している。これらを実現するため、広報、給食、行事、拘束の4つの委員会が構成され、各分野で行動をしている。他に業務分担を定めたり、ケアプランの部屋担当も決めている。緊急時の対応マニュアルも整備され、自衛消防隊組織も編成され、毎月利用者の避難訓練を実施して、「4分避難完了」という夜間を想定した訓練結果を見た。このように組織化、標準化により理念達成に一つ一つ積み上げ努力していることが具体的に理解できた。		

### 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か 田園地帯の住宅地の一画に、広い敷地に平屋建ての2ユニットがある。玄関を入ると、お雛様の段飾りが季節を感じさせてくれる。そこから左右に2つのユニットが分かれていて、その中間に事務室があり、両ユニットに通じている。ここは開放的な空間で、むしろ両ユニットの通路となっており、職員も利用者お自由に通り、両ユニットを行き交わしている。 リビングルームを中心にして、居室が並んでおり、リビングルームには食卓テーブルとソファがあり、広いスペースがある。利用者は自分の居室と共用ゾーンの自由に使っている。職事時やおやつ時間に全員集合してくる。 外部に広い庭と菜園もあり、間伐材で作ったベンチが置いてある。		

### ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のベースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせて調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

### III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物物の支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か 食事の時は、全員集合する。毎日の当番があって、ピンクの紙に表示されている。配膳が終わると、この当番の音頭で「いただきます」と挨拶して食事をして、歩ける人は下膳は自分で厨房へ運ぶ。 一人ひとりの出来る事は違うし、「車椅子だけど歩けるようになりたい」という願望がある。一人ひとりの自分の機能をどのように改善していくか、衰えをどう防ぐかは自分で決めるようにしている。「生活リハビリがんばり表」を自分で作る。リハビリの項目を2つ選び、リハビリを毎日して、終わったらこの表に色を塗って埋めていく。1ヵ月終わったら、この表が色で埋まり、美しい模様になるよう毎日の配色を決めて色えんぴつを選び、丁寧に塗る込んでいく。これが脳力のリハビリにもなる。 この継続により、歩けるようになった人を見て、車椅子の人も頑張り始めたと言ってくれた。		

### IV 運営体始めたと言明してくれた。

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。 代表は、自分の母親に対する経験から、高齢者にゆったりと穏やかな生活ができる場を提供したいという気持ちでこのホームを作った。ホーム長は長年障害者のボランティアをしていて、特養に少し関わった後、縁あってこのグループホームにきた。このような人の志に支えられたこのグループホームを計画作成担当者職員は、利用者が安全で快適な生活を送ってもらい、サービスの向上や地域に密着した認知症ケアの質の向上を実現するため、グループホーム同士の交流や外部研修を重ねていこう、そして将来の発展を期待したい。		